



事業内容

有機農産物の生産・販売

主な作物

- 葉物野菜(こまつな、みずな、しゅんぎく、ミニチンゲンサイ、レタス、ミニはくさい、ミニキャベツなど)
- 根菜類(にんじん、だいこん、じゃがいも、さつまいも、さといもなど)



こだわりPoint

土づくりにこだわり、有機栽培で定番野菜を多品目作っています。



多品目の有機野菜を栽培



食べることを大事に 普段使いする野菜を有機栽培で提供

「耕す」は、代表取締役で音楽プロデューサー小林武史さんの「食べることを大事にしたい」という思いのもと、自主生産の拠点として設立されました。木更津農場に続いて2012年丹波農場がスタート。全て有機栽培で、普段使いする野菜を買いやすい価格帯で消費者に提供しています。6ヘクタールの畑では、春夏・秋冬各10品目栽培。鶏・豚・牛の糞の堆肥や緑肥も使って土づくりを行います。販売先はスーパー・百貨店に特化。都市部の消費者のニーズに応じて、冷蔵庫に入りやすいミニサイズのはくさいやキャベツを栽培しています。

スタッフ Interview

山畑 隆行さん(28歳)

JA、コーヒーチェーンを経て、2017年に入社しました。ずっと就農したくて、多品目・有機栽培・兵庫県内を条件に探していたら、ぴたっとはまりました。農場長として栽培計画や作業全般を任せられ、みっちり勉強しています。すぐに燃え尽きていた自分が3年間も農業を続けていることに驚きも。気象条件が日々変わり、工夫と挑戦の毎日であることが楽しい。将来は独立したいと思っています。温暖化で天候リスクが高いので、施設栽培に興味を持っています。

トップ Message

経験を積みながら作る喜びをともに体験

取締役・丹波農場責任者
入江 洋介さん

多品目を有機栽培するというビジョンがはっきりしている会社です。病害を軽減し良い畑を作るため試行錯誤することも多々あり、経験を積みながら有機栽培を学ぶことができます。自分自身、この農場の母体である音楽会社で25年、丹波で8年頑張ってきましたが、いいものを作って喜ばれることの楽しさは一緒ですね。



所在地

〒669-4301

丹波市市島町下竹田325-4

TEL/FAX

TEL.0795-86-1450 FAX.0795-86-1455

H P

<http://www.tagayasu.co.jp/>

設立

2010年3月

資本金/売上高

1億円/7000万円

従業員数

社員3人、パート6人

雇用環境

社会保険制度(健康保険・雇用保険・労災保険・厚生年金)あり
週休1日(土曜)+1日(シフト制)。
夏休み・冬休み・リフレッシュ休暇(2月)あり
休憩室・寮あり

インターンシップ 随時受付



企業ホームページ

丹波市

ひょうたん農場 株式会社



事業内容

農産物の生産・販売
但馬牛の繁殖

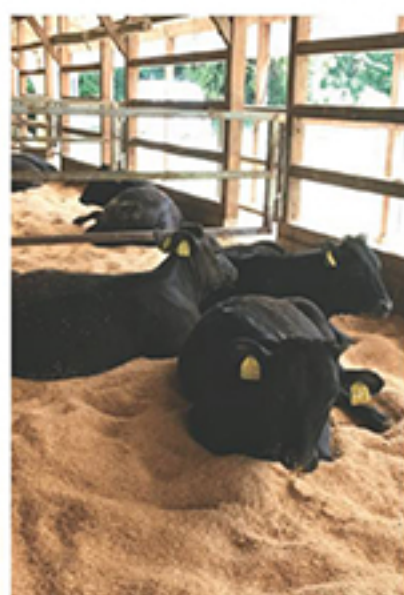
主な作物

- 但馬牛
- 米(コシヒカリ)
- 酒米
- 黒大豆
- 大納言小豆
- 栗



こだわりPoint

米作りと畜産を複合経営しており、自社で循環型農業を実践しています。



兄弟で米作りと畜産を担当 耕畜連携の循環型農業を自社で完結

スタッフ Interview

須原 秀次さん(35歳)

牧場長として、但馬牛繁殖の責任者です。病気を見逃さないよう、毎日牛の調子を見ています。肥育牧場に出荷した牛が品評会で良い成績を取ったときには、うれしいですね。これからも勉強です。

会社の役員としては、従業員全員がちゃんとした生活ができ、将来の設計ができるよう、兄弟で力を合わせて運営していきたい。役員はじめ社員も若い人が多いので、楽しく働けると嬉しいです。

兄弟で営む「ひょうたん農場」は、長男で代表取締役・須原隆一さんが米作り、次男の秀次さんが畜産を担当しています。昼夜の寒暖差が大きく、水がきれいな丹波の環境を活かし、コシヒカリと酒米を生産。酒米は地元の酒蔵に直接納めています。丹波の特産品である黒大豆と大納言小豆の栽培にも取り組んでいます。800平方メートルの牧場では55頭の但馬牛の母牛を管理し、子牛を生産。米作りで出たワラを牛の飼料とし、牛糞を米作りの堆肥とする循環型農業を、自社で完結しています。

所在地

〒669-4302

TEL/FAX

丹波市市島町中竹田1678-2

設立

TEL.0795-78-9487 FAX.0795-78-9488

資本金/売上高

2019年4月

従業員数

900万円/7000万円

雇用環境

社員4人、季節雇用1人

社会保険制度(健康保険・雇用保険・労災保険・厚生年金)あり

週休1日(農閑期は土・日曜休み)。

午前8時～午後5時の勤務。

盆・正月休暇と冬場の休暇あり

独立就農支援あり

休憩室あり、家賃補助制度あり

インターンシップ 要相談

トップ Message

自分の時間を大事にできる農業を

代表取締役

須原 隆一さん

有機栽培にも取り組み、農作業の機械化を考えています。いかにニーズに合う物を届けられるかと常に考え、米や野菜作り・牛の繁殖をしています。複合経営しているので、農業と畜産の両方を学ぶことができます。休みがなくきついという農業のイメージを覆して、働く人それぞれが自分の時間を大事にできる職場にしていきたいです。





事業内容

生乳の生産・出荷、乳牛の繁殖・飼育

主な産品

- 生乳(淡路島牛乳株式会社へ出荷)
- 肉用子牛(F1(交雑種)、ホルスタインの雄牛)



こだわりPoint

淡路島の山間部の空気が良い場所で、乳牛をストレスなく育て、安心・安全な生乳を生産しています。



開放的で清潔な牛舎



スタッフ Interview

新居田 和也さん(32歳・写真左)

農協の畜産関係の部署で働いていましたが、現場の仕事がしたくて、2013年に入社しました。午前6時からの搾乳に始まり、牛舎の清掃と何でもします。牛の発情期や妊娠している牛なら逆子でないかなど、常に健康状態のチェックを心掛けています。今では、牧場内の全ての牛を見分けることができます。

岡本 伸行さん(37歳・写真右)

3年間酪農の仕事をしており、社長の人柄に惹かれて2020年5月に入社したばかりです。職場は一丸となっていて、いい雰囲気ですね。仕事では、牛一頭一頭をなかなかきちんと判別できていないので、個体を全て覚えることが優先課題だと思っています。動物好きには楽しい職場です。

清潔な牛舎でストレスなく育つ乳牛 安心・安全でおいしい牛乳に

淡路島のほぼ中間の山間地で、82頭の乳牛(ホルスタイン)を育てる「SDF」。毎朝搾乳した生乳は、淡路島牛乳株式会社に出荷し、淡路島牛乳として消費者に届きます。安心・安全な生乳を作るには牛にストレスを与えないように育てるのが一番と、開放的な牛舎の中、清潔な環境作りに力を入れており、わらをまいて臭いを軽減しています。牛ふんたい肥として、地元農家に販売も。代表取締役の奥村重宏さんは長年洲本市畜産共進会に手塩にかけて育てた牛を出し続けており、育種改良にも熱心に取り組んでいます。

トップ Message

アットホームな雰囲気の中で楽しく仕事を

代表取締役

奥村 重宏さん

少人数でアットホームな雰囲気が、この会社の良さ。どの従業員とも垣根なく接するようにしています。毎朝搾乳しながら牛の健康をチェックするなど、細かい観察眼も必要ですが、まじめで明るい人なら大丈夫。牛相手の仕事なので、やはり動物好きな人の方が、楽しく働けると思います。



所在地

〒656-1335

洲本市五色町広石下1244

TEL

TEL.0799-35-0671

設立

2019年5月

資本金/売上高

100万円/1億3000万円

従業員数

社員3人、実習生1人

雇用環境

社会保険制度(健康保険・雇用保険・労災保険・厚生年金)あり
月に5日の休日を自由選択
休憩室、寮あり

インターンシップ 随時受付



事業内容

農産物(たまねぎ)の生産・加工・販売
たまねぎを中心とした青果物の仲卸

主な作物

○有機たまねぎ



こだわりPoint

有機JAS認定、「GLOBALG.A.P.」を取得し、有機栽培にこだわってたまねぎを栽培しています。



南あわじ市にある大型乾燥・冷蔵庫



スタッフ Interview

溝渕 忠さん(36歳・写真左)

実家はたまねぎとレタス、米を作っている農家で、有機栽培に興味があって、2013年に入社しました。これまでは冷蔵庫の施設で働き、貯蔵方法を学びました。8月に農園部に変わったばかりです。有機栽培をしっかりと学び、将来実家の農業を継いだときに活かしたいと思っています。

川上 真弘さん(24歳・写真右)

農学部出身で、2020年5月に入社したばかりです。有機栽培をしていること、G-GAPを取得していることが、入社を決め手になりました。今は農作業の全てが新鮮で楽しいです。これからは実際に作業する中、興味を持っている有機栽培をしっかりと学んでいきます。

自社生産分は有機栽培で たまねぎ農家と調理法に合わせたたまねぎ作り

青果物の仲卸業を営んでいる「新家青果」は、20年前にたまねぎの自家栽培をスタート。「淡路島のたまねぎの生産量が減少する中で、付加価値のあるものを作りたいだったので、有機栽培に取り組みました」と代表取締役・新家春輝さん。農家が実践できる栽培の研究も続け、慣行栽培を行う農家に有機栽培で得たノウハウを提供し、糖度9以上の加熱用「あまたまちゃん」と、辛み成分が少ないサラダ用「さらだちゃん」を誕生させました。棚で管理する方式の大型乾燥・冷蔵庫を備え、貯蔵法を工夫することで年間供給を可能にしています。

トップ Message

「GLOBALG.A.P.」を取得、世界進出を視野に

代表取締役 新家 春輝さん

淡路島以外に小野市と茨木市に事業所があり、今後は全国展開を考えています。輸出を視野に12年前にGLOBALG.A.P.を取得。将来的にはベトナムや中国で現地栽培をしたいですね。農家との関わりが深いので、モデルとなるような農業を研究・指導したいという思いがある人に働いてもらいたいと考えています。



所在地

〒656-1321

洲本市五色町鮎原中邑1005

TEL/FAX

TEL.0799-32-0024 FAX.0799-32-1153

HP

<http://www.shinkeseika.co.jp/>

設立

2003年5月

資本金/売上高

5500万円/10億円

従業員数

社員16人、技能実習生11人(ベトナム人8人、中国人3人)、パート70人

雇用環境

社会保険制度(健康保険・雇用保険・労災保険・厚生年金)あり
週休1.5日のシフト制、盆・正月休暇、有給休暇あり、
スタッフ研修制度、人事評価制度、
独立就農支援制度あり、休憩室あり

インターンシップ 随時受付



企業ホームページ